



生は URSI の国際会議で東京天文台は波長 10 cm (3,000 MHz) と協定しておられ、とりつくしまもなかった。従って大きな導波管や測定機まで手作りというはめになった。特に絶対必要なクライストロンは日本に規格品がなく、日本無線 K.K. にいやがるのをむりに特注したが、案の定できが悪く、高価な真空管が切れること、随分と手をやいた。今もってクライストロンという先ず切れはしないかという不安におそわれるくせがついている。

そんなわけで費用もかさんだが、約 1 年半かかってようやく受信機らしいものを組上げた。新緑の頃（御存じのように東京天文台は木が多い）初めて太陽を入れることができた。丁度その日天文台に教授会があって、萩原先生以下数人の先生が総出で太陽の記録を見に来て下さった。畑中先生が特に喜んで下さった。

だができ上がったものは、写真に見るように南を向きつばなしのトランシット型で、高度を合わせることによって、1 日に 1 回しか観測できないのである。

しかし日食が近づいて見ると、やはりなんとかしたい。もともと、上にも述べたように、この 3,000 MHz 受信機は、計画中の 10 メートルパラボラの予備的研究であるから、もちろんまとまった金もなく、研究費をくすねて作ったようなものであるから、Azimuth の回転構造を作るような予算は全くない。Elevation も同様であ

る。写真で見えるように Elevation は棒を締めつけることで一定の高度を保つわけで、ギア等はもちろん使っていない。しかもパラボラの分解能は約  $3^\circ$  (角) であり、ビームの先端を太陽にちゃんと向けるには  $0.5^\circ$  (角) 程度の精度を必要とした。

とにかく私達は長い木の角材を数本買って来た。それを地面に平に敷き、よく油をやった。その上にパラボラの架台を乗せ丸太ん棒でこじりながら水平角を合せることにした。パラボラの小さな孔からもれる太陽の光をたよりに、不満足ながらもどうにか太陽を追尾できるような予行演習ができたのは、たしか日食の前日であったように思う。そして写真のような、随分ガタガタしてはいるが、何とか eclipse curve を得たのである。

それでも、この curve から電波での太陽の見かけの大きさだとか、コロナでの電子密度の高い部分とか、limb-brightening の程度とかの問題について、一応の報告をすることができた。

この観測はやがて 1955 年の鹿児島日食に続くわけだが、太陽面の輝度分布についての観測は、この頃からようやくその偉力を示し始めた干渉計による観測に、そのお株をとられる形となって行く。

(東京天文台)

## 学会だより

庶務・会計よりおねがい

**46年度会費** まだ払ってない方が若干あります。47年3月末日までにお払いにならない場合、刊行物などの発送を停止します。6月号からとどかないと思います。3月

を過ぎてお払いになると、かなり混乱を生ずるかもしれませんがなるべく期限内にお願いします。今年度から特別会費 5,000 円、通常会費 1,800 円です。

**47年度会費** 今月号に納入用の振替用紙をいれました。47年12月31日までに御納入ください。期日を過ぎましたならば46年度同様に措置します。

**住所変更・退会について** 通知は早目をお願いします。月報発行の1ヶ月前に宛名を記入した封筒を印刷所に渡しております。住所が実際が変わってすぐお知らせいただいても、悪くすると2ヶ月は前の所にとどきます。住所は正式な番地を郵便番号をそえてお書き下さい。今まで番地なしでとどいていても、配達人が変わると駄目になることが、この頃は多いようです。退会者はすみやかに御通知下さい。督促状を出してはじめて退会とわかる例が少なくありません。

**欧文研究報告価格** バックナンバー価格は1号あたり、

1~10巻 1,100 円, 11巻以降 1,750 円  
 刊行中の巻は既刊号もバックナンバーとして扱いません。新刊は、丸善へ御注文ください。1年分7,000円。

**質問・報告について** 学会事務所には直接処理できる職員がおりません。東京天文台など最寄りの天文台にお願いします。

**学会だよりについて** 会費督促をしたところ、値上げを御存知ない方がかなり多いことがわかりました。学会の各種連絡事項は、月報にすべて掲載されますから学会だよりはかならずお読みになるようお願いいたします。

**賛 助 会 員 名 簿**

旭光学工業株式会社	鈴木幸三郎	住友化学工業株式会社	大谷一雄
朝日新聞社科学部	梅田敏郎	誠文堂新光社	小川誠一郎
アジア航測株式会社	駒村雄三郎	ソニー株式会社	井深大
アストロ光学工業株式会社	滝沢 磐	谷村株式会社新興製作所	谷村昌子
岩井計算センター	岩井英夫	地人書館	上条 勇
岩波書店	岩波雄二郎	天文博物館	
宇宙開発事業団	島 秀雄	五島プラネタリウム	五島 昇
カールツァイス株式会社	波木泰雄	東京精密測器株式会社	池 辺 常 乃
関西電力株式会社	芦原義重	東京電力株式会社	木川田一隆
関東電気工業株式会社	関井忠夫	東北電力株式会社	若 林 彊
九州電力株式会社	赤羽善治	ナルミ商会	村上俊男
株式会社クラレ	仙石 襲	日 米 商 会	高野高之
恒星社厚生閣	志賀正路	日本光学工業株式会社	杉 豊
甲南カメラ研究所	西村中子	丸 善 株 式 会 社	司 忠
五藤光学研究所	五藤 齊三	三鷹光器株式会社	中村義一
金光教本部教庁	金光鑑太郎	三菱電機株式会社	
三栄測器株式会社	丘山欽也	電子営業第二部	伊 東 祐 義
三省堂	亀井 要	ミノルタカメラ株式会社	田 嶋 一 雄
島田理化学工業株式会社	実 武 夫	八洲測量株式会社	西村正紀
新電子工業株式会社	山本和一		

1971年12月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	6,	62	6	8,	51	11	11,	72	16	8,	46	21	9,	64	26	—,	—
2	7,	56	7	7,	60	12	9,	50	17	10,	75	22	7,	82	27	—,	—
3	4,	24	8	7,	56	13	10,	55	18	11,	84	23	6,	97	28	7,	30
4	5,	34	9	9,	67	14	8,	51	19	—,	—	24	7,	88	29	6,	26
5	—,	—	10	11,	83	15	10,	61	20	—,	—	25	7,	84	30	—,	—
(相対数月平均値: 99.5)															31	6,	36

昭和47年1月20日 印刷発行 定価 175 円	編集兼発行人 印刷所 発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内 〒112 東京都文京区水道2-7-5 〒181 東京都三鷹市東京天文台内	森 本 雅 樹 啓文堂松本印刷 社団法人日本天文学会 振替口座東京 13595
		電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359	